



帝京大生の海外旅行意識調査

～若者の海外旅行熱は減退しているか？～

帝京大学経済学部観光経営学科
教授 石井 昭夫

観光経営学科は、観光産業という特定の産業分野と観光者という特定の消費者群にかかわる学問です。その中で、ゼミは産業界や観光地の当面する課題と直接かかわる教育ができる機会として重視しています。平成20年度の石井ゼミでは、全体研究として本誌に分載していただいた石井の『観光産業の構造変化に関する研究』を講読するかたわら、グループ研究として「帝京大生の海外旅行意識調査」「日中国際観光往来の歴史と展望」「国際観光地としての日光」を取り上げ、研究発表やフィールドワークを実施しました。「帝京大生の海外旅行意識調査」は業界紙誌などでも取り上げていただきましたが、今回本誌で全文を掲載していただけることになり、一部加除訂正を行ったものをご参考に供します。

帝京大生の海外旅行に関する意識調査

目 次

I. 調査計画の概要

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 調査の目的 | 5. 質問票 |
| 2. 調査の主体 | 6. 回収結果 |
| 3. 調査の方法 | 7. 入力・集計 |
| 4. 調査の実施日 | |

II. 調査結果の概要

1. 答えてくれた人（標本構成）
2. 調査結果の分析
 - (1) 海外旅行の経験
 - ①海外旅行経験の有無と経験回数
 - ②海外旅行をした時期
 - ③どのような機会があつて行ったか
 - ④海外旅行の行先
 - (2) 今後（大学生の間に）海外旅行に行く予定
 - ⑤海外旅行の予定（希望）
 - ⑥海外旅行に行く場合の同伴者
 - ⑦海外旅行の手配の方法
 - ⑧行ってみたいところ
 - ⑨積極的に海外旅行をしたいと思わない理由
 - ⑩安価なパッケージツアー商品の内容を見たことの有無
 - ⑪若者の間に海外旅行熱が減退したといわれていることについて
3. 自由記載欄のコメント

III まとめ

I. 調査計画の概要

1. 調査の目的

若者の間にかつてのような海外旅行熱が薄れているのではないかとの指摘があり、旅行業界でもそうした傾向を懸念している。これまでこのテーマに直接関わる調査が行われた事例が見当たらないので、帝京大生の協力を得てゼミの研究として調査を試みた。

2. 調査の主体（実施者）

帝京大学経済学部観光経営学科石井ゼミが企画し、大学事務当局および諸先生の協力を得て実施した。

3. 調査の方法

アンケート調査による。ゼミ授業の一環として行うため、ゼミの授業時間である金曜日の第3時限に行われる帝京大学八王子キャンパスのおよそ100の授業の中から無作為に24の授業を選び、担当の諸先生方の協力を得て質問票を配布・回収して行った。

4. 調査の実施日

7月3日（金）第3時限（13:00～14:30）の終了時

5. 質問票

別紙の通り

6. 回収結果

1,056票、うち有効回答1,055票を得た。

7. 入力・集計

株式会社日本統計センターに委託

II. 調査結果の概要

1. 答えてくれた人（標本構成）（Q12）

表1 標本構成

[学部別]		[学年別]	
法学部	146人 (13.8%)	1年	316人 (30.0%)
経済学部	345人 (32.7%)	2年	454人 (43.0%)
文学部	392人 (37.2%)	3年	191人 (18.1%)
外国語学部	3人 (0.3%)	4年	77人 (7.3%)
医療技術学部	133人 (12.6%)	無回答	17人 (1.6%)
短大生	23人 (2.2%)	合計	1,055人 (100%)
無回答	13人 (2.2%)	[生活環境]	
合計	1,055人 (100%)	自宅通学	564人 (53.5%)
[性別]		アパート・マンション・下宿	406人 (38.5%)
男性	766人 (72.6%)	学生寮・その他	52人 (4.9%)
女性	253人 (24.0%)	合計	1,055人 (100%)
無回答	36人 (3.4%)		
合計	1,055人		

回収した標本の構成は概要表 1 のとおりであった。学部別、学年別では八王子キャンパスに通学（所属）する学生全体の構成比と標本の構成比にずれはあるが、性別では殆ど同じであった（外国語学部は 08 年度新設）。ちなみに八王子キャンパスに在籍する学生総数は全学部 1～4 年生で男子 13,423 人（75.3%）、女子 4,402 人（24.7%）である。

生活環境では、自宅通学者が 564 人（53.5%）と半数を超えている。また、出身都道府県別では東京都を含む関東 7 都県が 683 人（64.7%）であった。

2. 調査結果の分析

調査は、学生諸君の過去の海外旅行経験を問うた第 1 部（Q1～4）と、将来の希望(予定)を訊ねた第 2 部（Q5～10）に大別し、第二部の最後に「若者の海外旅行離れといわれる現象」についてコメントを求め（Q11）、回答者の属性は Q12 で聞いた。さらに Q13 で設問以外に自由に意見感想を求めるという構成にした。なお、複数回答の場合の数表の合計数は回答者数で、パーセンテージはこの回答者数を分母とするものである。

（1）海外旅行の経験

① 海外旅行経験の有無と経験回数（Q1）

過去の海外旅行経験の有無を問うた質問に対し、表 1 のとおり「経験あり」が 51.1%と半数を超えている。回答者のうち 1～2 年生が 73%を占めていることを考えると、予想以上に経験者が多いという印象をもった。このことは、全体として、日本の海外旅行市場がかなり成熟していることを示すものと見てよさそうである。

また、性別未回答の 36 人を除いた 1,019 人の性別海外旅行経験は男性が「経験あり」49.5%、「経験なし」50.4%であったのに対し、女性は「経験あり」が 54.2%、「経験なし」45.8%と女性のほうが経験者が多かった。

旅行の経験回数については、図 1 および表 3 のとおり、海外旅行に行った人のうち 1 回のみが 49.7%とほぼ半数であったが、2 回 17.8%、3 回以上 26.2%と、リピーターも 44.0%あった。無回答は 6.3%であった

表 2 海外旅行経験の有無

海外旅行経験の有無	票数	%
ある	539	51.1
ない	515	48.8
無回答	1	0.1
合計	1,055	100

図 1 海外旅行経験回数

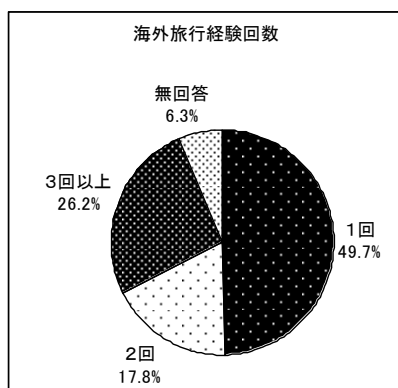


表 3 海外旅行経験回数

海外旅行回数	票数	%
1 回	268	49.7
2 回	96	17.8
3 回以上	141	26.2
無回答	34	6.3
合計	539	100

② 海外旅行をした時期（複数回答）（Q2）

海外旅行を経験した時期を問うた質問に対しては、表4に示すとおり、経験者539人のうち「小学生まで」に経験した者が39.9%あり、「中学・高校生」での経験者が72.2%であった。大学生になってからの海外旅行経験は14.7%にとどまっているが、これは回答者の73%が1,2年生であることも関係していると思われる。

また、次の設問（Q3）の「どのような機会に海外旅行をしたか」の問いに対して「両親・親戚の人と」が50%を超え、「修学旅行で」も40%を超えていることから、中学・高校生までにかかなりの学生が親などの負担で海外旅行をしていることがわかる。

「大学生になってから」が少ないのは、修学旅行はなく、両親らと行く旅行も減り、生活もある程度自立するようになって、後の項目に見るように、自前で行くには海外旅行は「高すぎる」という事情を反映していると考えられる。ちなみに、大学生になってから行った人のうち、60.1%が3,4年生であった。

表4 海外旅行に行った時期

いつ頃（複数回答）	票数	%
小学生までに	215	39.9
中学・高校	389	72.2
大学生になってから	79	14.7
その他（浪人・社会人）	10	1.9
無回答	3	0.6
合計	539	100

表5 海外旅行に誰と行ったか

どのような機会（複数回答）	票数	%
両親や親戚と	280	51.9
修学旅行で	221	41.0
友達と	51	9.5
海外に住んでいた	30	5.6
その他	100	18.6
無回答	5	0.9
合計	539	100

③ どのような機会があつて行ったか（複数回答）（Q3）

「どのような機会に海外旅行をしたか」の問いに対しては、表5の通り「両親や親戚の人と」

が51.9%と最も多く、ついで「修学旅行で」が41.0%であった。「その他の機会」では、100件の回答のうち具体的に挙げている例としては「学校企画の授業プログラムやホームステイ」が最も多く34件、「スポーツの試合やサークルの合宿」が26件、「留学」と高校やバイト先での「研修旅行」がそれぞれ7件、「海外の親戚などを訪ねた」と「一人旅」が各5件などとなっている。

表6 海外旅行の行先

旅行先（複数回答）	票数	%
近隣アジア諸国（中国、台湾、韓国、ASEAN諸国など）	213	39.5
ハワイ、グアム、サイパン	211	39.1
北米（アメリカ本土、カナダ、メキシコなど）	108	20.0
ヨーロッパ（ロシアを含む）	82	15.2
オセアニア（オーストラリア、ニュージーランド）	152	28.2
その他	26	4.8
無回答	3	0.6
合計	539	100

④ 海外旅行の行先〈過去の経験〉（複数回答）（Q4）

旅行先については、表 6 のとおり、近隣のアジア諸国とハワイ、グアム、サイパンなどのビーチリゾート地がそれぞれ約 40%弱で首位を争い、ついでオセアニア（28.2%）、北米（20.0%）、ヨーロッパ（15.2%）と続いている。「その他」では中南米、アフリカのほか、いくつかの特定の国（地）名が上がっている。

（2）今後（大学生の間に）海外旅行に行く予定

⑤ 海外旅行の予定(希望)（Q5）

大学生の間に海外旅行をする予定(希望)があるかどうかについては、図 2 および表 7 のとおり、「是非したい」「できればしたい」を合わせると、回答者の 4 分の 3（75.1%）が海外旅行に行くことを希望しており、海外旅行に対する関心が低いわけではないことが明らかである。「あまり興味がない」「する気はない」という否定的回答はそれぞれ 9.3%と 8.7%にとどまった。

図 2 海外旅行の予定

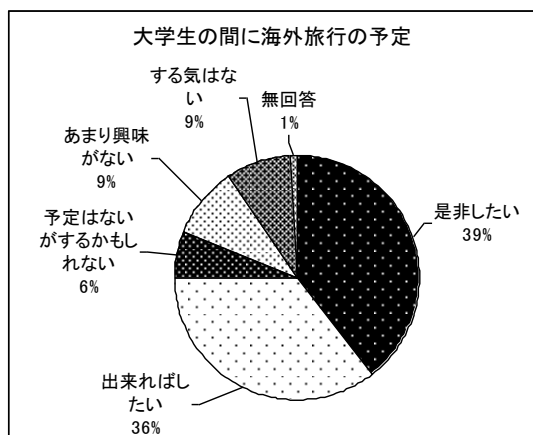


表 7 海外旅行の予定

大学生の間に海外旅行に行く予定	票数	%
是非したい	416	39.4
出来ればしたい	377	35.7
予定はないがするかもしれない	64	6.1
あまり興味がない	98	9.3
する気はない	92	8.7
無回答	8	0.8
合計	1,055	100

⑥ 海外旅行に行く場合の同伴者（複数回答）（Q6）

海外旅行をする場合「誰と行くか」という問を、海外旅行をする気はないと回答した人も含めて全員に尋ねたが、結果は、表 8 のとおり 84.6%と圧倒的多数が「友達」と答え、「両親・親戚」の 25.9%と「一人で」の 20.8%が続いている。「その他」は 4%にとどまった。「その他」で具体的に上げられている例は「恋人と」（12 件）、「サークルの仲間と」（6 件）が多かった。

表 8 海外旅行する場合の同伴者

海外旅行に行く場合の同伴者(複数回答)	票数	%
一人で	219	20.8
家族・親戚と	273	25.9
友達と	893	84.6
その他	42	4.0
無回答	20	1.9
合計	1,055	100

⑦ 海外旅行の手配の方法（複数回答）（Q7）

同様に、海外旅行に行く場合の旅行手配をどうするかという問いに対しては、表9のとおり、「卒業旅行などの学生向けのパッケージツアー」を利用するという回答が最も多く54.2%と半数を超え、ついで「一般のパッケージツアーを利用する」と「安い航空券を買い自己手配で旅行する」がともにほぼ40%で続いている。「その他」で具体的に記載があるのは、「野宿、ヒッチハイクなど」（3件）、「何の計画も立てずにふらっと」（2件）、「ホームステイ、ワーキングホリデーで」（2件）など。

表9 海外旅行をする場合の手配

海外旅行の手配の方法 (複数回答)	票数	%
一般のパッケージツアーを利用	421	39.9
卒業旅行など学生用のパッケージ旅行を利用	572	54.2
外国に住んでいる友人・親戚を訪ねる	86	8.2
安い航空券をかってホテルなども探して観光	420	39.8
その他	20	1.9
無回答	22	2.1
合計	1,055	100

⑧ 行ってみたいところ（複数回答：2つまで）（Q8）

希望する行先は、表10のとおり、過去の経験とは大きく異なり、ヨーロッパが断然多くて69.4%、次いで「どこかのビーチリゾート」が31.8%、アメリカ本土が24.7%であった。これに続く

表10 行ってみたいところ

行ってみたいところ (複数回答2つまで)	票数	%
近隣諸国	124	11.8
アメリカ本土	261	24.7
ヨーロッパ	732	69.4
どこかのビーチリゾート	336	31.8
その他	161	15.3
無回答	17	1.6
合計	1,055	100

表11 積極的に海外旅行をしたいと思わない理由

積極的に海外旅行をしたいと思わない理由（複数回答、最大3つまで）	票数	%
先にもっと国内旅行をしたい	90	35.4
ほかにしたいこと（ほしいもの）がある	30	11.8
お金がない	137	53.9
時間がない	66	26.0
一緒に行く人がいない	9	3.5
どうしていいかわからない	30	11.8
そもそも海外旅行に興味がない	63	24.8
言葉がわからなくて不安	96	37.8
飛行機が嫌だから	25	9.8
その他	22	8.7
無回答	18	7.1
海外旅行に消極的の合計	254	100

のは「その他」の15.3%で、近隣諸国は11.8%にとどまっている。「その他」では、オーストラリア（18件）、カナダ（9件）、南米（ペルーなど）（8件）、ニュージーランド（5件）などが多く、数は1~2人ずつだが、世界中の地名が挙がっている。オーストラリアは過去の経験のほうには入っているが、Q8ではミスで選択肢から落としてしまったために「その他」に書かれたもの。

⑨ 積極的に海外旅行をしたいと思わない理由（複数回答：最大3つまで）（Q9）

Q5で積極的に海外旅行をする気がないと答えた人（「予定はないがするかもしれない」を含む）に対して、積極的に行きたいと思わない理由を上げてもらったところ、表11のとおり、半数を超える53.9%が「お金がないから」を挙げ、次いで「言葉がわからなくて不安」（37.8%）と「先にもっと国内旅行をしたい」（35.4%）が30%台を超え、「時間がない」（26.0%）と「そもそも海外旅行に興味がない」（24.8%）が20%台、「ほかにしたいこと（ほしいもの）がある」と「どうしていいかわからない」が同数の11.8%（30件）であった。「ほかにしたいこと（ほしいもの）がある」で具体的に内容を挙げているものは、バイク、パソコン、車、楽器、アクセサリ・服、友達と楽しむ、興味のあることの勉強、マンション購入のための貯金、行事の資金集め、趣味に使う、部屋の改善、本の収集、など多種多様であった。

また、「飛行機が嫌いだから」という人がほぼ1割の9.8%、「一緒に行く人がいない」が3.5%あった。「その他」が8.7%（22件）あったが、その内容で一番多かったのは「治安の悪さが心配」「海外はこわい」といった安全に関する不安であった。「治安・安全」は自由記載欄のほうに24人が特記しており、調査者としては選択肢として掲げておくべきであったと反省している。

⑩ 安価なパッケージツアー商品の内容を見たことの有無（Q10）

海外旅行に関心が薄い理由に「海外旅行は高価」というイメージがあるかもしれないという推測から、パッケージツアーであれば、国内旅行と変わらない安価なものもあることが知られているかどうかを見るために、本項目の設問を加えてみた。結果は、「見たことがある」人は30.0%止まりで、67.7%は実際にそうした商品の内容を見たことはないと答えている。

表12 安価なパッケージの知識

安価パッケージツアー 商品の内容を見たこと の有無	票数	%
ある	317	30.0
ない	714	67.7
無回答	24	2.3
合計	1,055	100

⑪ 若者の間に海外旅行熱が減退したといわれていることについて（Q11）

今日、若者の間に海外旅行熱が減退していると言われるようになった。統計上、海外旅行者に占める若者の比率が低下していることは事実であるが、それは若者の「海外旅行熱の減退」が理由なのかどうかを推測する一手段として、ここでは学生たち自身はどう考えているか問うてみた。

図3、表13に示すとおり、半数を超える50.5%が「そうは思わない」と答えており、「そう思う」と同意を示しているのは34.3%であった。「その他」（自由記載）を選んだ人が11.7%（123人）あり、その内容は「わからない」（33人）、「そんなこと知らない、関心ない」（20人）、「何と比べてそういうかが問題、以前を知らないから比較のしようがない」（4人）などのほか、海外旅行熱が減退したというより、忙しい、金がない、英語ができない、海外に行くのにビビっている、航空事故が続いている、燃油サーチャージが高

い、面倒なだけ、などなど、Q9の設問と重複する様々な回答があった。また、「昔ほど海外旅行が珍しいわけではない、いつでもいけると思うからそんなにムキにならないだけ」といったもっともなコメントも数件あった。

図3 若者の海外旅行熱

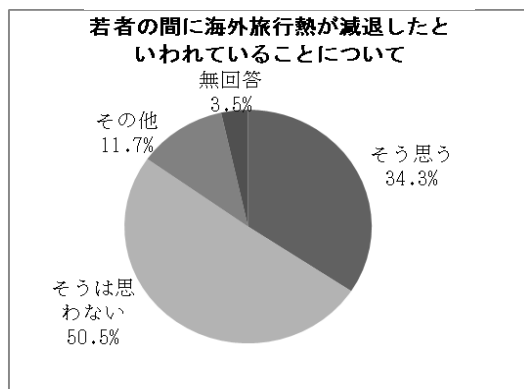


表13 若者の海外旅行熱

	票数	%
そう思う	362	34.3
そうは思わない	533	50.5
その他	123	11.7
無回答	37	3.5
合計	1,055	100

3. 自由記載欄のコメント (Q13)

- *1,055人のうち、何らかのコメントを残してくれたのは全部で294人(27.9%)であった。
- *設問でかなり詳しく尋ねているので、自由記載欄のコメントはこれらと重複するものが多かったが、設問へのチェック解答では選択肢の数字にしかならないが、この欄ではナマの表現なので大学生の本音が感じられる。
- *海外旅行に行く予定については、「予定はないがするかもしれない」(6.1%)を加えれば81.2%が海外旅行の実施に関心を持っていることから推測されるとおり、自由記載欄のコメントも、海外旅行そのものに否定的なものはゼロであり、「学生のうちに海外旅行をしたい！ すべきだ！ 行った方がいい！ 勉強になる！」という趣旨のコメントが82件、「金さえあれば行く、手の届く安いプランがあれば行く」という趣旨のコメントが42件など、むしろ積極的に行きたいとするコメントが圧倒的に多かった。
- *消極的とみえる意見では「テロなど治安が心配」(24件)、「海外旅行は準備が面倒」(7件)、「国内の方が安い、気楽、まずは日本を見てから」(22件)といったものが多かった。
- *「原油高でサーチャージがかかって行けそうもない」(18件)、「世界遺産に落書きなどするな、マナーをわきまえろ！」(11件)など、調査時期の話題を上げている者もかなりの数に上った。
- *具体的な内容のコメントとしては、件数はわずかだが次のようなものがあった。
 - 普通の旅行より留学、ホームステイ、ボランティア活動など、目的を持って行きたい
 - 学生向けの安くて有意義なツアーがほしい、学生向けのプランが貧弱、学割がない
 - 海外旅行には準備して行くべき、歴史や地理、行く国の勉強をしてから行くべき
 - 中学・高校の修学旅行で海外に行くべきだ、未経験だと不安な人が多いはず
 - 昔ほど海外旅行が困難でないから、無理して早く行くという気持ちになれないのでは
 - ツアーのパンフの「日常から解き放たれて」のコピーは、何をしても不安になる
 - 海外へ行けば日本の常識が通用しないことがわかる(アメリカで水道水が飲めないことにびっくりした！など)

III. まとめ Conclusions

1. 本調査について

- 1) 本調査はゼミの授業の一環として実施したものである。質問表の作成から、標本の採り方、質問表の配布収集、調査結果の作図や報告書作り、オープンキャンパスでの中間報告（モデル授業として実施）など、すべて学生と一緒にいった。
- 2) この調査は、当初は 2007 年度のゼミで「学生と海外パッケージツアー」をテーマに企画したものを、2008 年度に今回の仕様で実施したものである。準備から実施の過程で、観光業界でも、マスコミでも、若者の海外旅行離れが取り上げられ、結果として時宜をえたものになった。
- 3) 調査票の質問項目や記載の仕方について反省すべき点もあったが、「アンケート調査」（サンプリングサーベイ）の実施というゼミの学習としては有効であった。

2. 調査の結論

- 1) 調査の目的は「若者（学生）の間で海外旅行熱が低下しているか」との問題提起に対して答えを見出すことであったが、調査結果をもとに学生たちと論議してみた結果では、かならずしもそうではない、あるいは、そういうためには検証してみるべきことが多いという結論となった。
- 2) 論点としては；
 - * 若者世代の海外旅行の実数が減少していることについては、例えば 10 年前の若者世代より若者の人口自体が減少していることとの関係を確認する必要がある。
 - * 年齢別、性別の海外旅行統計を詳細にチェックし、ライフスタイルとの関係を調べて、その中で現在の若者の特徴をみると面白いのではないか。
 - * 海外旅行の統計では目的別のデータが公表されていない。観光ないし観光に準ずる旅行のほうが、業務出張その他の義務的旅行より、相対的に円安、不景気、安全といった要素に左右されやすい。この点では若者、とくに学生は業務出張などの機会がなく、また、熟年層より金銭的自由度が少ないなど、行きたくないのではなく「お金がなくて行けない」が圧倒的なのだから、これを海外旅行「熱」の高低に還元することには疑問がある。
 - * 「海外旅行熱が減退している」といっても、「いつと、何と比較して」そういうのが明確にされていない。海外旅行が困難で高嶺の花であった時代に比べれば、行こうと思えば簡単に行ける時代なので、飢餓感のような海外旅行熱が薄れるのは当然である。大学の 1~2 年生が 73% を占める母集団の 51.1% が海外旅行を経験しているということ自体が海外旅行への関心の高さを証明しているともいえる。もう少し違う視点の調査が必要であろう。
 - * 海外よりも前に「国内旅行をしたい」と答えた人が 35.4% あることも考慮すべき点である。大学生になって、まだ自前でそれほど旅行する機会がない時点では、「国内旅行か海外旅行か」という選択の優先順位についてももう少し詳しく見てみる必要があるだろう。
- 3) 報告書の結果の概要をもとに、11 月 21 日のゼミで座談会風に学生とディスカッショ

ンを行った。その際の感想は以下のとおりであった。

*われわれは観光経営学科の学生だから、行きたくない人はいなくて当然。

*パッケージ旅行を利用するのにとくに抵抗はない。

*お金はバイトで無理すれば稼げる。行かない理由は、一緒に行く人が簡単に見つからないからではないか。海外旅行に行くのはよほど親しい友達でないと。

*数百万円くらい臨時の収入があればどこへ行くかを話題にしてみた。アフリカ、中南米など、簡単には行けない遠距離の目的地が上げられたほか、ガラパゴスなど珍しい世界遺産を訪ねるなどの答えが返ってきた。

4) 以上のような論点を、既存の調査統計資料を検討して、今後のゼミ授業の中で整理していきたい。